

[第三者からのご意見]

ムラタのCSRに期待する

CSRとは企業が社会と結ぶ責任であり、社会とはさまざまなステークホルダーとして企業を取り巻いています。株主も、社員も、地域住民も、一般市民も、皆、企業のステークホルダーです。その中で、企業の責任として何をなすべきかを考えることが、CSRの原点となります。

CSRを考える出発点は、現在にあるのではありません。将来目指すべき社会像があり、そこに向けて企業がどのような努力ができるのか、あるいはするべきなのか、を考えることが重要です。目指すべき社会の方向性とその中で企業ができるを考えること、これがCSRの基本です。

ムラタは世界的なエレクトロニクスの部品メーカーとして、大きな社会的役割を果たしており、同時に新しい社会を創造する責任も負っています。その中心は事業を通じた社会貢献ですが、それだけではなく社員を通じたよりよい社会の実現、地域社会への貢献、環境保全への努力など、さまざまな活動が含まれます。

本報告書では、ムラタがこのようなさまざまな活動に対して、多数の社員が生き生きと取り組んでいる様子が伝わってきます。社員に働き甲斐のある職場を提供することは、最も基本的な社会的責任であり、そこから、地域社会や地球全体への貢献が生まれます。本報告書では、ムラタがそのような取り組みを積極的に進めていることが分かります。

しかし、CSRを進めることは簡単ではありません。社会的価値を創り出すには困難が伴います。そのためには大きな方針を立てて、それをブレークダウンして、行動に結びつけるマネジメントが不可欠です。また、CSRを一般的に定義するだけでなく、ムラタでなければできること、ムラタだからできることを強調することも必要と思います。

また、幅広いステークホルダーから意見をもらう努力をして、方向性を常に検討することも重要です。CSRは企業が（社員を含む）ステークホルダーに対して開く窓であり、双方向のコミュニケーションから次に進むべき道を明らかにすべきです。ムラタのCSRがさらに発展することを期待します。



神戸大学大学院 経営学研究科 教授

國部 克彦氏